

## 腰部脊柱管狭窄症の手術体験記

### はじめに

私が手術をしようと考えましたのは、このまま、だましまし我慢していた腰の痛みと、特に左膝下の痛みを我慢し続けるのにはあまりにも痛みが激しくなったこと、また、友人からは、腰の手術をして良くなったという話を聞いたからです。

最初、足の裏にしびれが出てきたのは、20年以上前になるかと思います。その時は痛みに関する症状は全くありませんでしたので、何もせずにおりました。そして、14,5年前になるかと思いますが、椅子から立ち上がった時に急に腰に痛みが走り、歩くのが厳しくなりました。

その時には自宅近くの駅前接骨医に行き、腰上部背中マッサージをしてもらい、痛みがスッと抜けてほっとしたのですが、翌日になるとまた痛みが発生し、その後、接骨医に通うこととなりました。また、近くの整形外科にも行ったのですが、その時には外科医はMRI写真を見て、「椎間板ヘルニアのようだね」と診断し、痛み止めの薬と頸椎を引っ張るリハビリを行うことになりました。しかし、一向に良くなる気配がありませんでしたので、医者通いも止めました。

痛みは我慢できる状態だったので、早朝、公園に行き、鉄棒を使って背中筋肉をマッサージしていました。そして、朝風呂で足腰を温めて何とかしのいでいました。また、夜にはフィットネスクラブに行き、水中ウォーキングをしていました。

さらに4,5年前に、今度は左脚下の個所が長く歩くと突っ張ったような痛みが走り、休憩すれば良くなるのですが、間欠性跛行症の症状が現われました。ところが、それも少しの間だけで、痛みが無くなりました。しかし、2年ほど前からはこの間欠性跛行症が再発し、痛くなる期間が十数分から数分とだんだんと短くなるのと併せて、痛みも我慢できなくなってきました。

周りの友人たちには腰の手術をしたという人が数人いましたので、手術についていろいろと意見を聞いたのですが、手術した方が良いと言う方たちが大半でした。たまたま、掛かり付けの内科開業医の先生に腰の痛みを話したところ、高校の先輩に有名な先生がいるので紹介してあげようということになりました。

紹介を受けた先生に診断してもらいますと、「君の左足親指は、上に持ち上げる力が殆ど無くなっている。しびれが発生した時期から神経にダメージを与えていて、今では左脚下部の神経は損傷している。この損傷やしびれは手術をしても治らない。ただ、間欠性跛行症の痛みを取ることができるであろう。手術をしないで今のまま放置していると、右脚にも同様の症状が発生するとも限らない。そうすれば歩けなくなるがどうするか」と言われ、手術する決心をしました。

---

## 1. 手術後 1 週間目の状況

2014 年 12 月 14 日 記

12 月 8 日に腰痛手術を無事終わりました。腰部の 5 椎弓の個所を神経に触れないように削ってもらいました。

悪い個所は全てきれいにしたからとの医者のお笑いながらの説明で、私は安心しました。しかし手術後は、手術による影響で動くと両足に痛みの伴うしびれが走り、歩くのも歩行器だけではまもなく、殆ど寝たきりになりました。また寝返りをする時も、脚に何とも言えない痛みの伴うしびれが腰痛部から両足に走りました。従って手術前には間欠性跛行症の状態だったのですが、今では足腰を動かす時から痛みが腰から両足に向けて走るような状態です。

主治医は手術結果の状況を、「寝ていて痛みの殆どない状態において、切断患部の痛み以外に、脚に力がうまく入っているかどうか」を調べます。即ち、「神経に障害を与えていないかどうか、また、力の入り具合が以前より悪くなっていないかどうか」を調べているようです。私が訴える痛みについては「手術に伴う影響で、この痛みは時間をかければ軽減されるので心配は全くない」ということです。

一番困ったのは下の取り扱いでした。10 日まで (2 日間) はカテーテルをしていたので、また、便秘が続くので、問題がなかったのですが、その後、カテーテルをはずしてからは看護師に連れられての便所通いです。できるだけ回数を減らそうと、出せる小水は徹底的に出そうと心掛けました。しかし、夜間は以前から頻尿の兆候がありましたので、2,3 時間ごとに看護師を呼び出しているトイレ通いは困りました。13 日 (手術後 5 日目) からは「歩行器による一人での歩行も大丈夫」とり

ハビリの先生から許可が得られ、やっと何とか、看護師なしの歩行ができるようになりました。

2 番目に困ったのは、寝ているときの寝返りです。コルセットで胴体を締め付けていますので、「回転するときは、丸太を転がすようにしろ」とのことです。「ねじるのが今一番患部に良くないので気をつけること」と言われました。それでなくても寝返りする際には痛みが走ります。しかし、同じ体形を続ければだんだんと辛くなりますので、どうしても寝返りをするようになります。また、膝を立てたり、伸ばすときにも痛みが走りますので、本当に困りました。手術後 1 週間目の今でもその兆候は続いています。ただ、少し慣れてきたのと時間が経過して体調が回復してきたので、しだいに良くなってきています。

今はやっと余裕ができ、パソコンを開けるところまで来ました。パソコンには数百ものメールが来ており、それらの処理を少しずつ始めることにしました。また、一人で歩行器を使って、廊下での「歩く」リハビリをすることができる状況になりました。患部の状態も良くなっているとのことで、来週からは本格的なりハビリが始まるとのことです。筋肉の伸縮リハビリはすごく痛いと同じ病室にいる先住者が話していましたので、回復への第一歩として痛みを耐え、年内退院を目標に頑張ろうと思いました。

---

## 2. 手術後 2 週間目の状況

平成 26 年 12 月 23 日 記

ようやく両杖で歩行できる状況ということなので、回復への進行が少し遅いように思っています。退院は、どうも年明けになりそうです。

手術後丁度 2 週間が経ちましたので、症状がどのようなものか整理してみました。文末の付表 [腰部脊柱管狭窄症の手術後の経過] にその状況を示します。この表では一見悪くなって、良くなってはいないように見えますが、悪くなっている箇所はリハビリと時間治療で良くなるものと思っています。

しびれは元々良くなりませんと言われています。最終的に手術がうまくいったのかどうかは退院後、実際に長く歩いても間欠性跛行症状が現れることなく、また痛み

も発生しない状態であることを確かめればよいと言うことになると思います。2週間目の状況は次のとおりです。

- (1) 手術後最も気になっていました、仰向けに寝ているときに膝を立てたり、伸ばしたりする動きの時（寝返りの時も同様）に、両脚に何とも言われぬ強い痛みの伴うしびれがあったのですが、それは殆どなくなりました。
- (2) 手術以前には気になっていなかった右脚について、手術後、痛みの伴うしびれが脚を動かす際に発生しました。それについてはだんだんと回復に向かっていくようで、痛みは弱まってきました。
- (3) 痛くない両足(くるぶしより下の部分、特に足の裏)のしびれについては、以前からの神経の損傷に伴うものであるため今回の手術では良くなりそうも無く、以前と全く変わらない状態です。
- (4) 手術後は歩くのもおぼつかない状態（膝がガクンとする状態）であったのですが、今は両杖で歩行できる段階になりました。
- (5) 悪かった左脚（間欠性跛行症）については実際に長く歩いてみて、痛みの出ないことを確認しないと何とも言えません。

#### [手術後 2 週間目の感想]

1.手術するなら、できるだけ進行の少ない早い段階の方が良い。

(i) 同じ病室に、同様の腰部脊柱管狭窄症の患者が入室し、19日に手術。彼は、私より10歳若く、症状も私より軽いようだ。

(ア) 彼の入院前の状況は、足のしびれは通常ない。しかし長く歩くと、痛みの伴うしびれが走る間欠性跛行症の症状が出る。

(イ) 彼の手術で削った椎弓など（軟骨）の量は次ページ写真右。私は、腰部5椎弓の全て(5椎)について削ったが（写真左）彼は、2,3椎とのことで、削った量はおよそ半分であった。

(ウ) 彼の手術後の状況：「私のような痛くなかった右脚が痛くなる(痛みの伴うしびれ)」といったこともなく、腰痛部に以前からあった「重みをのせた鈍痛」がある程度とのこと。しびれも一切出ていないとのこと。歩行器を使っているが、それは医者からの指示で、本人は無くても歩くことができるとのこと。



私の削られた軟骨の量



同室の方の削られた軟骨の量

- (ii) 神経が損傷して、足にしびれ(痛みは無い) が走ってから手術をしても、そのしびれは治らない。従って、そのようになる前に手術をすべきである。
2. 痛みについては相対的なところがあり、より痛い個所があると、少しの痛みがあってもあまり気にしなくなる傾向にある。
- 左脚に少し痛みの伴うしびれがあったにも拘わらず、手術後は右脚に痛みの伴うしびれが発生したために、左脚の痛みが気にならなくなっていた。右脚が良くなってくると、少し痛みの伴う左脚のしびれが復活してきている。この痛みは、長い間、同じ姿勢をしていた時などの常時ではないために、忘れがちになるのかもしれない。
3. ひどくなってからの手術は、手術後の回復に時間がかかりそうである。
- 手術に対する手術時間の長さや軟骨の削る量の多さから、周りの神経への影響があるのかもしれない。そのため手術後に他の部位（右脚の痛み）に対しても影響を及ぼしているものと思われる。
4. リハビリ中（一週間経過）の痛みにはリハビリによる筋肉痛も混ざっていて判断を誤らせるかもしれないので、後一週間過ぎてから判断するのがよさそうである。

---

### 3. 手術後 3 週間目の状況

平成 26 年 12 月 29 日 記

午前中のリハビリに続き、午後には、両杖歩行から片杖歩行の両杖持ちで、廊下(一周 120m) を 2 周、それを 5 回 行う(合計 1.2km) 一人リハビリをしています。退院は、年明けになりました。

手術後 3 週間目の状況を文末の付表 [腰部脊柱管狭窄症の手術後の経過] に追記しました。付表に示すように、手術後悪くなったところについても良くなっていますが、新たに、次の 2 件の痛みが発生しました。

- (1) 時たまではありますが、「座る時」と「歩行中」に、右腰部に「相当気になる痛み」が発生しています。いずれ痛みは取れるものと思われませんが、早く良くなりたいと思います。
- (2) その他、右手片杖の歩行の影響かどうか分かりませんが、左肩に「気になる凝り」が発生しています。これは、腕と肩の運動をすれば、やがて良くなるものと考えています。

また、次の状況も確認されています。

- (3) 手術前に発生していた左脚の膝及び膝下の脚における間欠性跛行症による痛みとは少し異なるのですが、歩行リハビリをしていると左脚の膝及び膝下の脚に「すこし気になる軽い痛み」が発生します。
- (4) 痛くない両足(くるぶし下の部分、特に足の裏) のしびれについては、以前からの神経の損傷に伴うものであるために、今回の手術では良くなりそうもありません。
- (5) バランス感覚については、両足の筋肉を強くしていることで、手術前にはほぼ戻っているようです(階段の手すりを必要とするレベル)。更なるバランス感覚(階段の手すり不要)まで復帰することを望んでいるのですが、今後の状況を見なければ分かりません。
- (6) 悪かった左脚(間欠性跛行症) については、実際に長く(連続 1km 以上) 歩いてみて、痛みの出ないことを確認する必要があります。

退院の条件は、おそらく「片杖で問題なく長距離(20～30 分以上の距離) 歩行できること」になると思います。退院後もコルセットは最低、手術後 3 ヶ月間(3 月 8 日まで) は付けておかなければならないそうです。

### [手術後 3 週間目の感想]

1. 手術するならできるだけ進行の少ない、早い段階の方が良い。

神経が損傷して、足にしびれ(痛みは無い) が走ってから手術をしても、そのしびれは治らない。従って、しびれを感じるようならすぐに、腰痛に得意な総合病院などで「手術の要否」の判断を仰ぐべきである。

2. ひどくなってからの手術は、手術後の回復に時間がかかりそうである。

ひどくなってからの手術は手術時間が長くなる、椎弓 (軟骨)を削る量が多くなる、切断する筋肉量が多くなるなど重大となる。このため手術後、他の部位に対する影響や痛み(右脚の痛み)が長期間続くことになる。それゆえ、杖への切り替えまでの歩行器利用期間、痛みが取れる時期などが、早い段階で手術した者に比べて長く、また遅くなっている。

---

### 4. 手術後 4 週間目の状況

平成 27 年 1 月 5 日 記

午前中の 1 時間程度のリハビリに続き、午後には、片杖歩行で廊下 (一周 120m) を 5 周、これを 2 度 (合計 1.2km) くりかえす一人リハビリを行っています。退院は、1 月 10 日と決定しました。

手術後 4 週間目の状況を付表 [腰部脊柱管狭窄症の手術後の経過] に追記しました。ここに表示したように、手術後悪くなったところについても良くなっていますが、新たに発生した次の 2 件 ((1)、(2)項) の痛みは少し和らいできた程度で、まだ痛みが残っています。

- (1) 背中を曲げて「座る時」に、右腰部に「気になる痛み」が発生、背中を真っ直ぐにして座ると発生しないので、おそらく今まではこれに気付いていなかったのではないかと思います。いずれ痛みは取れるものと思われませんが、今回の手術では腰部に対する痛みを取ることは主目的ではなく、「間欠性跛行症の痛みを取る」ことが目的であるため、どの程度腰痛が良くなるかはこれからのリハビリに依存しそうです。
- (2) その他、右手片杖歩行の影響かどうか分かりませんが、左肩腕に「すこし気に

なる凝り」が発生、1 週間過ぎましたが、この痛みはまだ残っています。これは、左の腕と肩の運動をすればやがて良くなるものと考えていますが、少し長い気がします。

また、次の状況も確認されています。

- (3) 手術前に発生していた左脚の膝及び膝下の脚における間欠性跛行症による痛みとは少し異なるのですが、歩行リハビリをしていると左脚の膝及び膝下の脚に「すこし気になる軽い痛み」が発生します。しかし筋肉が強化されれば、この痛みは無くなるものと思われます。
- (4) 痛くない両足(くるぶし下の部分)の「しびれ」については、以前からの神経の損傷に伴うものであるため、今回の手術では良くなりそうもありません。これは、手術時期が数年遅すぎたので、回復するのは困難だと思われます。脚に「しびれが来た」ような方は、私のように遅くなってから手術をするのではなく、早急に脊椎・脊髄専門の病院に行って診断を仰ぐ必要があるでしょう。
- (5) バランス感覚については、両足の筋肉を強くしていることで、手術前のレベル(階段の手すりを必要とするレベル)にまでほぼ戻っています。更なるバランス感覚(階段の手すり不要レベル)までの復帰を望んでいますが、どうなるかは今後の状況を見なければ分かりません。
- (6) 悪かった左脚(間欠性跛行症)の回復については、実際に長距離(連続 1km 以上)を歩いてみて、痛みの出ないことを確認する必要があります。現在の連続 600m の歩行では、少し「張ったしびれ」が入ってきます。しかし、これは間欠性跛行症の症状とは少し違うような気がします。

退院後もコルセットは、最低手術後 3 カ月(3 月 8 日まで)は付けておかなければならないため、腰部の本格的な強化はコルセットを外した 3 月以降になりそうです。ほぼ完全に回復した(100%腰痛が取れるということではない)と分かるのは、手術後半年頃(2015 年 6 月)の時期だとも思われます。

---

## 5. 手術後約 3 か月目(2 カ月と 4 週間目)の状況



平成 27 年 3 月 5 日 記

現在、コルセットを外そうとする段階で、歩行は杖つき歩行が続いています。現在の生活は週 3 日ほどは東京に出向き、月に 2,3 回程度は休日に趣味のコントラクトブリッジをするため、横浜に出かけています。その他の日は自宅にいるような状況です。

痛みについては大幅に改善し、入院中のように「悪いところ探し」をする日々ではなくなり、時々動いた時に発生する痛みは無視できる程度の状態になっています。現在の状況は以のとおりで。

- (1) 腰部：腰部は背筋を伸ばすと筋肉痛のような鈍痛が少し走り、やや気になる程度です。ただ、歩行を 10 分間ほども続けていると、コルセットの重みもあって鈍痛がはっきりと現われてきます。15 分間ほど歩くと休憩したくなってしまう。
- (2) 左肩腕：左肩腕の鈍痛はすっかり無くなりました。50 肩が 1 か月ほど続いた状態でした。
- (3) 左脚の膝及び膝下の脚：普通に座っていると特に痛みはありません。しかし、歩行を 10 分間ほど続けていると膝下の脚が張り、鈍痛がだんだんと走ってきて少々気になるところです。
- (4) 両足（くるぶし下の部分、特に足の裏）のしびれ：手術前と全く変わっていません。歩いている時にも、自分の脚で歩いているといった感覚ではありません。特に、左膝下の脚部については、けつまずくのを防ぐために意識して膝上脚部で持ち上げて歩いている状態です。
- (5) バランス感覚の悪さ：手術前と全く変わっていません。歩き始めや悪い道、階段などでは、手を使うか杖がないととても不安な状態です。長い時間、静止起立をすることはできません。
- (6) 両脚の膝下のむくみ：退院前にはむくみは無くなっていたのですが、自宅に戻ったその日から、むくみは手術前と同様に発生しました。これは手術前と全く変わっていません。
- (7) 間欠性跛行症の症状：間欠性跛行症の症状は無くなったと考えられますが、(3) 項に示す「左脚の膝及び膝下の脚」の「突っ張った感じの少し気になる

鈍痛」が、将来共に悪化しなくなることを願っています。

### [手術後約 3 か月目の感想]

今回の腰部脊柱管狭窄症の手術について、周りの患者の皆さんと懇談しながら彼らの状態を確認したところ、私の場合、手術後も腰部の痛みが残っているが、他の方たちの大半は腰部の痛みはないそうである。即ち、周りの方たちはもともと腰痛が主な原因ではなく、間欠性跛行症（長く歩いた時に発生する脚のしびれを伴った痛み）により歩行が困難なために手術に臨んだ方たちが大半であった。間欠性跛行症は、腰部脊柱管狭窄症の手術、即ち、椎弓を削ること(椎弓が神経根を圧迫させているのを取り除くこと)で解決することができる。

従って、私の腰痛の原因はかれらのそれとは異なり、椎間板ヘルニアにあるものと推察される。これを取り除くには、飛び出した椎間板（ヘルニア）が神経へ及ぼす悪影響を取り除くことで解決できるものと思われる。しかし、今回の手術では飛び出したヘルニアを削っておらず、神経を圧迫させている椎弓を削っているだけなので、腰痛についてどこまで改善されるかは今後の数カ月のリハビリ結果を待たなければならないと思っている(主治医は、本手術で神経の圧迫を無くしているのに、腰痛についても周りの筋肉を増強すれば治るであろうと説明している)。

現在、こうした手術やそれからの回復復帰に関して、以下のような見方や見通しを持っている。

1. 手術するなら、できるだけ進行の少ない早い段階の方が良い。

神経が損傷して、足にしびれ(痛みは無い)が走ってから手術をしても、そのしびれは治らない。従って、しびれを感じるようならすぐに、脊椎・脊髄を得意とする総合病院などで「手術の要否」の判断を仰ぐべきである。

2. ひどくなってからの手術は、手術後の回復に時間がかかりそうである。

ひどくなってからの手術は手術時間が長くなる、椎弓（軟骨）を削る量が多くなる、切断する筋肉量が多くなるなど、身体への負担が大きくなる。こうしたことのため私の場合、手術後に他の部位（右脚の痛み）に対する影響や痛みの期間の長さが増しているものと思われる。そのため、歩行器の利用から杖への切り替えにかかる期間、痛みが取れる期間などが、早い段階で手術した人に比較して長

くなっている。

3. 脊柱管狭窄症の手術は腰痛を治すのではなく、脚の痛み（間欠性跛行症の症状）を取り除くものである。

脊柱管狭窄症に対する手術は、手術の個所が腰部の脊椎・脊髄の個所であるが、腰痛を治すのではなく、脚の痛み（間欠性跛行症の症状）を取り除くものである。「腰部5椎の椎弓のうち、神経を圧迫させている個所（私の場合は腰部5椎）全てを削ること」である。「椎間板の飛び出し部（ヘルニア）を取り除く手術は難易度が高く難しいので、取り除いていない」ので、直接の腰痛対策にはなっていない。しかし、神経を圧迫させている椎弓の個所を削って神経の圧迫を解消させているので、間接的に腰痛対策を行ったことになる。

4. 腰痛回復はあと3カ月ほど、様子見となる。

手術に基づく筋肉損傷のため、手術後すぐは腰痛が増すことがあるが、腰痛の原因となっている神経の圧迫を解消させているので、腰痛は元に戻るだけでなく、それ以上に軽減されることになる。そのためにはコルセットを外してから、腰部の筋肉を増強させることをする必要がある。これには手術後半年はかかりそうである。

5. しびれ、バランス、むくみが治るかどうかは、今後の状況観察になる。

しびれ、バランス、むくみは既に神経を損傷させていることに起因しているところがあるため、どこまで回復するのか、今後の回復状況を見守るしかなさそうである。この中で気になっているのがバランス感覚である。足の感覚レーダーの麻痺しているのが治らなければ、杖つき歩行になりそうである。

---

## 6. 手術後7か月目の状況

平成27年7月13日記

- (1) **腰部の鈍痛**：前回報告5と特に変わりはなく、良くなっていません。腰部は座っている時には、背筋を伸ばすと筋肉痛のような鈍痛が少し走り、やや気になる程度ですが、歩行を10分間ほど続ければ鈍痛が累積し、痛みははっきりと現われます。15分間ほど歩くと休憩したくなります。

- (2) 左肩腕：左肩腕の鈍痛はすっかり無くなりました。
- (3) 左脚の膝及び膝下の脚 (間欠性跛行症の症状)：前回報告 5 と特に変わりはなく、良くなっていません。普通に座っていれば特に痛みはありませんが、歩行を 10 分間ほど続ければ膝下の脚が張り、鈍痛がだんだんと走ってきて気になります。間欠性跛行症の初期症状と同じです。将来、悪化しなくなることを願っています。
- (4) 両足(くるぶし下、特に足の裏の部分)のしびれ：手術前と全く変わっていません。歩いている時も、自分の脚で歩いているといった感覚ではありません。特に左膝下の脚部については、けつまずくのを防ぐため意識して膝上脚部で持ち上げて歩いています。
- (5) バランス感覚の悪さ：手術前と全く変わっていません。むしろ、歩き始めや悪い道、階段などでは手を使うか、杖がないと不安な状態です。静止起立している時間が、足に震えがきて短い状況にあります。
- (6) 両脚の膝下のむくみと痙攣：退院前にはむくみは無くなっていたのですが、自宅に戻ったその日からむくみは手術前と同様に発生しました。また、朝方の目覚めに足を伸ばしたくなり、うっかり足を伸ばすと痙攣が発生したりします。こうした状況は手術前と全く変わっていません。

(総括)：前回報告よりおよそ 4 か月 (手術後 7 か月) 経過しましたが、症状に回復の兆しは見えていません。**良くなったと言えるのは、「手術前には数分間歩くと痛みが増し我慢が出来なくなっていたのですが、その時間が 15 ~ 20 分間程度に延びたこと」**だけです。すなわち、間欠性跛行症の初期症状に戻っただけです。

我慢でないほどの痛みは取れたものの、すっかり痛みが取れるものと期待しましたが、現状、良くなってはいません。バランス感覚も、特に座っている状態より、立ち上がった時などに不安定さが残っています。すなわち、項目(2)を除く項目(1)、(3)~(6)に関する状態はまったく改善されていません。次回の検診が 9 月 17 日 (9 か月目) にあるのですが、その時までには「少しは良くなっている」と言えるようになりたいと願っています。

MS 手術日 2014年12月8日		腰部脊柱管狭窄症の手術後の経過 [手術後回復に向けて]		2014年12月22日 (手術後2週間)					2014年12月28日 (手術後3週間)					2015年1月5日 (手術後4週間)				
				手術前の状態	手術直後の状態	手術前の状態	手術直後の状態	手術後2週間目	手術前の状態	手術直後の状態	手術後2週間目	手術後3週間目	手術前の状態	手術直後の状態	手術後2週間目	手術後3週間目	手術前の状態	手術直後の状態
		全く気にならない																
		あまり気にならない																
		少し気になる																
		気になる																
		相当気になる																
		非常に気になる																
		気になるどころではない																
1 腰部																		
1.1.1 重みが乗っている鈍痛がある(常に)										←						←		
1.2.1 脚に走る筋の付け根に弱い痛みがある(常に)				←						←						←		
1.3.1 仰向けに寝ると「引っ張られる痛み」が追加される(常に)										←						←		
1.4.1 立っているときに背筋を伸ばすと腰より両脚に弱い痛みのしびれが走る			-							-						-		
リハ ビリ	1.5.1 座ろうとする時及び片杖歩行中に呼吸を整えようとして、息を止める時に、 時たまではあるが、急に右側腰部に痛みが発生する。(リハビリのためか?)																	
2 臀部両側の足に走る筋(脚全体)																		
2.1 左側臀部(脚全体)																		
2.1.1 脚に走る筋の付け根部分に弱い痛みがある(常に)				←						←						←		
2.1.2 立ったままじっとしていると脚に走る筋の付け根部分に弱い痛みがある(常に)				←						←						←		
2.1.3 仰向けに寝て、膝を曲げると強い痛みが脚全体に向けて走る(常に)				←	→					←	→					←	→	
2.1.4 歩くときに筋の付け根部分に弱い痛みが走る(常に)			-							-						-		
2.2 右側臀部(脚全体)																		
2.2.1 脚に走る筋の付け根部分に弱い痛みがある(常に)										←						←		
2.2.2 立ったままじっとしていると脚に走る筋の付け根部分に弱い痛みがある(常に)										←						←		
2.2.3 仰向けに寝て、膝を曲げると強い痛みが脚全体に向けて走る(常に)										←						←		
2.2.4 歩くときに筋の付け根部分に弱い痛みが走る(常に)			-							-						-		
3 左脚																		
3.1 左脚 もも																		
3.1.1 歩くときに弱い痛みが走る(時々)			-							-						-		
3.2 左脚 膝の外側足に走る筋																		
3.2.1 歩行(動か)した後、弱い痛みが走る(常に)			-							-						←		
3.2.2 弱い痛みがある(時々)																		
3.2.3 長く(1~2時間) 同じ方向で寝ていると、特にひざ部分に鈍痛が続く(時々)																		
3.2.4 長く(~500m) 歩くと強い痛みが走る(常に)----間欠性跛行症			-							-						-		
3.3 左脚 膝																		
リハ	3.3.1 歩き始めたためか、がくがくする弱い痛み続く(常に)		-							-						←		
3.4 左脚 脚下部																		
3.4.1 弱い痛みがある(時々)																		
リハ	3.4.2 歩行(動か)した後、あるいは長く同じ状態を続けていると弱いしびれができる																	
3.5 左足(痛みではない)																		
主治医の 言うとおり、 治りそうもない	3.5.1 しびれがある(常に)																	
	3.5.2 ベッドに座り下に足をだらんとしているとしびれが増し、冷たくなる(常に)																	

